

滝静壽編。

シェイクスピア狂言について、pp. 23-34

滝静壽・佐々木隆編「資料編」

日本における『じゃじゃ馬ならし』上演年表、pp. 118-123

歌舞伎・狂言師によるおもなシェイクスピア劇出演年表、pp. 124-125

参考文献、pp. 1276-191

概要

狂言については、3つの違ったアプローチの上演に注目した。第1にシェイクスピア作品の完全な狂言化として、三宅藤九郎の『じゃじゃ馬ならし』や和泉元秀の『夏の夜の夢』『十二夜』を取り上げた。第2に狂言版シェイクスピアとして、高橋康也脚本・野村万作演出の『法螺侍』に注目した。第3に原語シェイクスピア狂言として、ダン・ケニーと和泉元秀のを取り上げた。言葉を重視した狂言とシェイクスピア劇との共通性を着目した。比較演劇や演劇による文化交流の観点から論じたものである。(B6)